

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年5月27日に「令和3年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。このたび、鎌倉市全体の調査結果がまとまりましたので、本市の児童生徒の学習・生活状況の概要をお知らせします。

1 調査の概要

(1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和3年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領:文部科学省から)

(2) 実施状況

○実施年月日 令和3年5月27日(木)

○実施内容日 ①小学校の教科に関する調査(国語・算数)

②中学校の教科に関する調査(国語・数学)

③児童生徒質問紙調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等)

○実施児童生徒数

小学校6年生 16校 1,279人

中学校3年生 7校 891人

※中学校9校の内、2校については、学校行事重複により実施日を延期したため、文部科学省からの調査結果には反映されていない。

(3) 調査結果の見方

本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることから、児童生徒が身に付けるべき学力の全てを表すものではない。

※ 使用している用語についての説明は次のとおり。

○平均正答数 … 児童及び生徒の正答数の平均

○平均正答率 … 児童及び生徒の平均正答数を百分率で表示

○中央値 …… 集団のデータを大きさの順に並べた時に、真ん中にくる値のこと。
平均値とともに集団における代表値としてとらえられます。

○標準偏差 …… 集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味します。

2 結果全体の概要

(1) 教科に関する調査(平均正答率:単位%)

○全体の傾向

小学校		国語	算数
鎌倉市	R3	61	72
	H31(R2は実施せず)	61	70
神奈川県 (公立)	R3	63	70
	H31(R2は実施せず)	61	67
全国 (公立)	R3	64.7	70.2
	H31(R2は実施せず)	63.8	66.6

中学校		国語	数学
鎌倉市	R3	70	65
	H31(R2は実施せず)	79	65
神奈川県 (公立)	R3	65	58
	H31(R2は実施せず)	73	59
全国 (公立)	R3	64.6	57.2
	H31(R2は実施せず)	72.1	59.8

小学校では、全国・県の公立平均正答率と概ね変わらない結果であった。中学校では、全国・県と比べ公立平均正答率を大きく上回っており、大変良好であったと言える。バランスよく基礎・基本の習得とそれらを活用する力の育成が図られていると考えられる。

3 教科別概要と分析、改善に向けて

※記号について(神奈川県教育委員会の分析基準に準拠)

◇・・・全国平均正答率より5ポイント以上高かった設問

◆・・・全国平均正答率より5ポイント以上低かった設問

※領域別分析の文末()内に問題番号、市平均正答率

【小学校 国語】

《概要》

「話すこと・聞くこと」「読むこと」の結果は全国平均と概ね変わらない。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、正しい漢字を書く問題について正答率がやや低く、文の中

でどの漢字を使うか判断し、正しく書くことについて課題がある。また、無回答率が高いことから、日常的に既習漢字を活用することについて課題がある。

「書くこと」については、詳しく書き直したり、条件に合わせて書いたりする問題に対し、正答率が低く無回答率も高いことから、目的や意図に応じて工夫して書くことに課題がある。

後半の問題の無回答率が高く、時間内に回答が終わらなかった児童がいると考えられ、処理能力の面で課題がある。

また、文章の読み取りや内容の理解に時間を要する問題に粘り強く取り組む態度についても課題があると考えられる。

《内容別分析》

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇該当なし

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

(3 三(1)ア)(72.2%) (3 三(1)ウ)(38.6%) (3 三(1)エ)(67.2%)

◆文の中における主語と述語との関係を捉えること。(3 三(2))(イ 54.7%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

漢字を日常生活の中で適切に使うことができるようにするために、必要に応じて漢字を使って文章を書く機会の充実。

○学習例

自分の書いた文章について、既習の漢字を使っているか読み返し、適切な漢字を使って書き替える学習。

話すこと・聞くこと

◇該当なし

◆該当なし

書くこと

◇該当なし

◆目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

(3二)(45.0%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

読み手に考えがよく伝わるようにするために、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や簡単に書いた方が効果的である場合などを判断しながら、書き表し方を工夫する学習の充実。

○学習例

読み手に効果的に伝わる文章の工夫について、具体例をとおして学級で対話的に検討・判断し、目的や意図に応じて文章を工夫して書く良さを実感することができる学習。

読むこと

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

漢字の指導に当たって、既習の漢字を進んで使用するよう働きかけることや、文章の中でどんな言葉や漢字を使うことがふさわしいかについて考える機会を設けるなど、日常の中で漢字を活用する場面を取り入れていくことが必要である。

「書くこと」の力の充実に向けては、読み手に考えがよく伝わるようにするための表現方法について丁寧に指導し、目的や意図に応じて文章を書くことの良さを実感できるような活動を充実させていくことが大切である。

【小学校 算数】

《概要》

調査の結果は全般的に全国平均よりやや高い。学習指導要領の領域の全てにおいて全国平均より高く、特に「図形」では図形を構成する要素や面積を求める公式の理解が進んでいることがわかる。

「測定」「変化と関係」では、速さを求める式の意味の理解において、全国、県の平均をやや上回っている。

無回答率は、全体的に全国平均よりやや高く、算数の問題を解くことに関して最後まで粘り強く解いていこうとすることに課題がある。

《領域別分析》

数と計算

◇該当なし

◆該当なし

図形

◇直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。(2(2))(77.9%)

◆該当なし

測定

◇該当なし

◆該当なし

変化と関係

◇該当なし

◆該当なし

データの活用

◇該当なし

◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

概ね基本的・基礎的な知識・技能が定着していると考えられる。ほとんどの問題において、全国よりやや高い正答率となっているが、「数と計算」の領域の、小数を用いた倍の意味についての記述式の問題ではやや低い正答率となっている。今後は数の仕組みなどを理解して考えを表現することができるよう、指導の工夫、改善が必要である。

また、全体的に無回答率が全国平均よりやや高いので、最後まで粘り強く取り組もうとする姿勢を育てるための学習指導の充実が必要である。

【中学校 国語】

《概要》

全体的に結果は良好で、すべての設問において全国平均を上回っている。

領域では、「話すこと・聞くこと」については、おおむね良好である。「書くこと」、「読むこと」が良好な結果であるが、「書くこと」では、推敲する場面において、書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題があり、「読むこと」では、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことに課題がある。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についてもおおむね良好であるが、相手や場に応じて敬語を適切に使うことについて課題がある。

問題形式では、特に記述式の正答率が全国の平均を大幅に上回り、無回答率も低く、自分の考えや伝えたいことを文章で表すことができている。

《領域別分析》

話すこと・聞くこと

◇話し合いの話題や方向をとらえて、話す内容を考える。(1 三) (64.2%)

◆該当なし

書くこと

◇書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く。(2 一) (30.0%)

◇書いた文章を互いに読みあい、文章の構成の工夫を考える。(2 二) (83.4%)

◇伝えたい事例が相手に効果的に伝わるように書く。(4 四) (77.0%)

◆該当なし

読むこと

- ◇文脈の中における語句の意味を理解する。(3 一) (50.5%)
- ◇場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する。(3 二) (66.8%)
- ◇登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する。(3 三) (76.2%)
- ◇文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分の考えを持つ。(3 四) (29.9%)
- ◆該当なし

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇事象や行為などを表す多様な語句について理解する。(4 二) (80.8%)
- ◇相手や場に応じて敬語を適切に使う。(4 三) (48.0%)
- ◆該当なし

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

すべての設問において、正答率は全国平均より高いものの、全国と同様に正答率が低かった設問については課題とすべきところである。

「書くこと」については、読み手の立場に立って文章を整えることに課題があり、自分の文章が他者にどう読まれるかを自覚し、自分の書いた文章を説明や具体例、描写などに着目して見直し、誤解のない表現や、より効果的な表現を用いて、読みやすくわかりやすい文章となるよう指導することが重要である。

「読むこと」では、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするに課題があり、理解したことを他者に説明する学習活動の中で、特に引用の仕方について理解を深めるように指導する必要がある。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、謙譲語の使い方に課題がある。自分の発信した情報がどう受け止められるかを想像したり、相手の状況や媒体の特性などを考慮したりして書くように指導することが重要である。

【中学校 数学】

《概要》

学習指導要領の領域、評価の観点ともに神奈川県や全国の平均を上回る良好な結果となった。

学習指導要領の領域別では、図形の性質を考察する場面において、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることの正答率が全国平均に比べて大きく上回っている。しかし、資料の活用については、全体としてみれば平均を上回ってはいるが、与えられたデータから中央値を求めることの正答率は、平均を下回っており、課題としてとらえる必要がある。

評価の観点別では、数学的な見方や考え方が大きく平均を上回った。

《領域別分析》

数と式

- ◇数量の関係を一元一次方程式で表す(2) (80.3%)
- ◇四角で囲んだ4つの数が、12、13、17、18 のとき、それらの和が4の倍数になるかどうかを確かめる式を書く。(6(1)) (89.0%)
- ◇四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることの説明を完成する。(6(2)) (77.2%)
- ◇四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍あるかを説明する。(6(3)) (41.0%)
- ◆該当なし

図形

- ◇中心角 60° の扇形の弧の長さについて正しいものを選ぶ。(3) (76.5%)
- ◇四角形 $ABCE$ が平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。(9(1)) (59.1%)
- ◇錯角が等しくなることについて、根拠となる直線 FE と直線 BC の関係を、記号を用いて表す。(9(2)) (75.5%)
- ◇ $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く。(9(3)) (40.9%)
- ◆該当なし

関数

- ◇経過した時間と影の長さの関係を、「…は…の関数である」という形で表現する。(4) (61.2%)
- ◇与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。(7(2)) (33.6%)
- ◆該当なし

資料の活用

- ◇2つの分布の傾向を比べるために相対度数を用いること的前提となっている考えを選ぶ。(8(2)) (42.4%)
- ◇「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。(8(3)) (18.3%)
- ◆反復横とびの記録の中央値を求める。(5) (78.9%)

《改善に向けての指導のポイントと学習例》

○改善に向けての指導のポイント

データの特徴を捉えるための指標として、代表値の良さを知り、求めることができるようにする指導の充実。

○学習例

目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る学習。

《改善に向けて、鎌倉市としての取組》

本調査から、学習指導要領の領域、評価の観点ともに神奈川県や全国の平均を上回る良好な結果となったことから、概ね基礎的・基本的な力が定着しているものと考えられる。今後も学習内容を確実に定着させ、さらに充実した指導の工夫改善を進める。

一部が全国の平均を下回った資料の活用については、言葉の意味を理解したうえで、それを的確に活用することができるような丁寧な指導が大切である。

4 児童生徒質問紙の特徴及び課題と改善に向けて

※記号について

◇良好と認められる点 ◆課題のある点

※文末()内は設問番号

【児童質問紙 小学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

- ◆自分にはよいところがあると思う児童は 31.0%で、全国の 36.2%に比べてやや低い。(6)
- ◆将来の夢や目標を持っている児童は 53.9%で、全国の 60.2%に比べてやや低い。(7)
- ◆自分でやるときめたことは、やり遂げるようにしていると答えた児童は 29.4%で、全国の 35.9%より低い。(8)
- ◆人が困っているときは、進んで助けているという児童の割合は 35.2%で、全国の 43.6%より低い。(10)
- ◆いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童は 77.4%で、全国の 84.1%より低く、当てはまらないと答えた児童の割合も全国より 1.1 ポイント高い。(11)

◎学校生活について

- ◇ICT機器を週一回以上使った児童の割合は 43.4%で、全国の 40.1%よりやや高い。(26)
- ◇自分の考えを工夫して発表していた、どちらかといえば工夫して発表していた児童の割合は 68.8%で、全国の 63.5%より高い。(32)
- ◆算数の授業で学習したことは、社会に出た時役に立つと思うと回答した児童の割合は 69.0%、普通の生活の中で活用できないか考えると回答した児童は 36.5%で、全国のそれぞれ 72.8%、39.3%より低い。(55)(56)
- ◆英語の授業で自分の考えや気持ちを伝え合うことができた児童の割合は 58.5%で、全国の 74.6%より低い。(62)

◎家庭生活について

- ◇朝食を毎日食べている児童の割合は 88.0%で、全国の 85.8%よりやや高い。(1)
- ◇平日、学校の授業時間以外で、2時間以上勉強をしている児童の割合は 38.1%で、1 時間以上読書をしている児童の割合は 21.4%で、全国それぞれ 26.9%、18.2%より高い。(18)(21)

◇学習塾や家庭教師の先生に教わっている児童の割合は 58.4%で、全国 (39.8%) より高い。(20)

◎地域生活について

◆今住んでいる地域の行事に参加しているという児童は 17.4%で、全国の 26.7%より低い。(24)

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、基本的な生活習慣についてはおおむね良好だが、自尊感情、規範意識についてはやや課題がみられる。自分の目標をもち自己決定することで自尊感情を高めることや、他者に関わり互いに認め合うことを通して、規範意識や思いやりの意識をもてるようにすることが大切であると考えられる。

◎学校生活について

教科の学習状況でやや課題がみられる。算数では、生活の中で活用することを考え、社会に出た時に役に立つ学習であると考えている児童の割合は、全国より低くなっており、英語の学習では、自分の思いや考えを伝え合う学習が全国より低くなっている。今後、より実生活に結び付いた学習活動を展開することで実感を伴った学びにつなげ、児童の思いや願いを高める授業づくりが大切であると考えられる。

また、ICT 機器を使った授業が増えてきたところではあるが、その学習の成果や効果についても検証した授業づくりが必要と考えられる。

◎家庭生活について

学習習慣において、学校の授業時間以外の学習や読書において、全国の割合と比べて良好であると考えられ、学校以外の場所で勉強している児童の割合が高く、日常的に塾や家庭教師と過ごす時間が多い。一方、学校以外の場所で勉強していない児童も一定数いることから、学校の授業のなかで主体的・対話的な学習を充実させ、自ら課題をみつけ解決していく資質・能力の育成が求められているといえる。

◎地域生活について

地域行事に参加する児童の割合が全国の平均より低い原因のひとつには、コロナ禍で行事自体が減っていたことも考えられる。今後も児童へ地域社会での行事やボランティアへの参加をよびかけるなど、地域社会との関わりやつながりを増やしていくことが大切であると考えられる。

【生徒質問紙 中学校】

《特徴及び課題》

◎個人について

◇自分には、よいところがあると思っている生徒の割合は 38.3%で、全国の 34.5%より高い。

(6)

◆自分でやるときめたことは、やり遂げるようにしていると答えた生徒は 28.3%で、全国の 34.7%より低い。(8)

- ◆人が困っているときは、進んで助けているという生徒の割合は 36.1%で、全国の 41.6%より低い。(10)
- ◆いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと回答した生徒は 74.3%で、全国の 81.4%より低く、当てはまらないと答えた児童の割合も全国より 1.2 ポイント高い。(11)

◎学校生活について

- ◇ I C T 機器を週一回以上使った生徒の割合は 42.4%で、全国の 33.4%より高い。(26)
- ◇自分の考えを工夫して発表していた、どちらかといえば工夫して発表していた生徒の割合は 79.6%で、全国の 62.0%より高い。(32)
- ◇国語の授業では、目的に応じて話す、書く、読むにおいて、当てはまる、どちらかといえばあてはまると回答した生徒がそれぞれ 65.5%、80.9%、81.9%で、全国のそれぞれ 61.3%、74.6%、77.0%より高い。(48)(49)(50)
- ◆数学の授業で学習したことが、将来、社会に出た時に役に立つかという設問で、当てはまる、どちらかといえば当てはまると回答した生徒が合わせて 68.2%で、全国の 74.6%より 6.4 ポイント低い。(55)

◎家庭生活について

- ◇朝食を毎日食べている生徒の割合は 83.1%で、全国の 81.8%よりやや高い。(1)
- ◇平日、学校の授業時間以外で、2時間以上勉強をしている生徒の割合は 59.4%、週 1～3 日以上新聞を読んでいる生徒は 12.2%で、全国のそれぞれ 41.8%、10.4%より高い。(18)(23)
- ◇学習塾や家庭教師の先生に教わっている生徒の割合は 77.6%で、全国(59.1%)より高い。(20)
- ◇平日、スマートフォンやコンピュータなどの I C T 機器を使って、1 時間以上勉強している生徒は 22.3%で、全国の 19.5%よりやや高い。(29)

◎地域生活について

- ◆今住んでいる地域の行事に参加しているという生徒は 9.7%で、全国の 16.3%より低い。(24)

《改善に向けて》

◎個人について

本調査における本市の集計結果から、基本的な生活習慣についてはおおむね良好である。また自尊感情については全国と比べてやや高いが、規範意識については課題がみられる。他者と関わり互いに認め合うことを通して、規範意識や思いやりの意識をもてるようにすることが大切であると考えられる。

◎学校生活について

児童生徒一人一台端末が令和 2 年度(2020 年度)末までに導入され、徐々に学習場面で活用されていると考えられる。ただ調べるだけでなく、プレゼンテーションソフトを活用し、学習したことを表現する活動にも活用されていると考えられる。教科の学習において、数学が社会に出た時に役に立つ学習であると考える生徒の割合が全国より低く、今後、数学の知識・技能が、より社会に結び付いていく学習活動を展開することが大切であると考えられる。

◎家庭生活について

学習習慣において、学校の授業時間以外の学習や新聞を読む割合は、全国の割合と比べて良好であり、学校以外の場所で勉強している生徒の割合が高く、日常的に塾や家庭教師と過ごす時間が多いと考えられる。一方、学校以外の場所で勉強していない生徒も一定数いることから、学校の授業のなかで主体的・対話的な学習を充実させ、自ら課題をみつけ解決していく資質・能力の育成が求められているといえる。

◎地域生活について

地域行事に参加する生徒の割合が全国の平均より低い原因のひとつには、コロナ禍で行事自体が減っていたことも考えられる。今後も生徒へ地域社会での行事やボランティアへの参加をよびかけるなど、地域社会との関わりやつながりを増やしていくことが大切であると考えられる。

【資料1】令和3年度全国学力・学習状況調査概要（小学校 国語・算数）

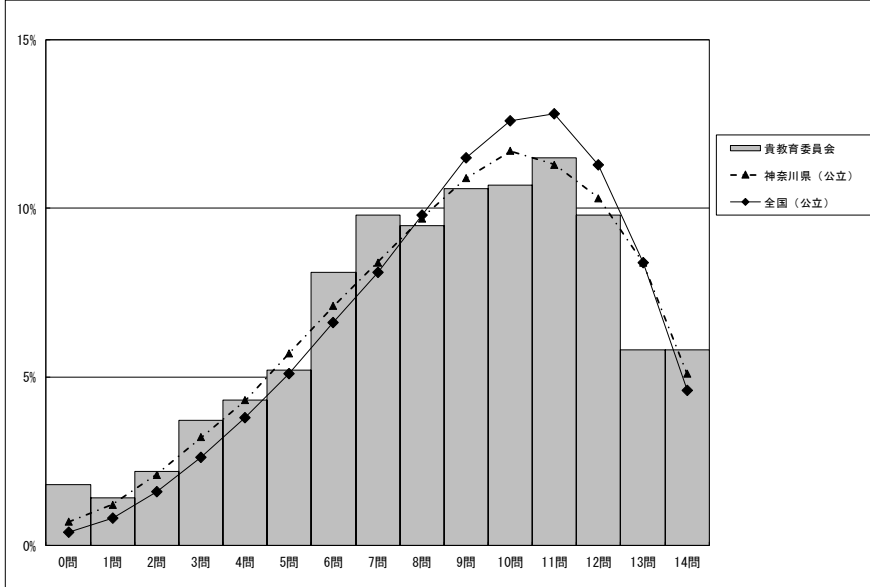
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会—児童

小学校調査

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,279	8.5 / 14	61	9.0	3.4
神奈川県（公立）	70,576	8.8 / 14	63	9.0	3.3
全国（公立）	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	児童数 貴教育 委員会	貴教育 委員会	割合 (%) 神奈川県 (公立)	全国 (公立)
14問	74	5.8	5.1	4.6
13問	74	5.8	8.4	8.4
12問	125	9.8	10.3	11.3
11問	147	11.5	11.3	12.8
10問	137	10.7	11.7	12.6
9問	135	10.6	10.9	11.5
8問	121	9.5	9.7	9.8
7問	125	9.8	8.4	8.1
6問	104	8.1	7.1	6.6
5問	66	5.2	5.7	5.1
4問	55	4.3	4.3	3.8
3問	47	3.7	3.2	2.6
2問	28	2.2	2.1	1.6
1問	18	1.4	1.2	0.8
0問	23	1.8	0.7	0.4

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問	7.0問

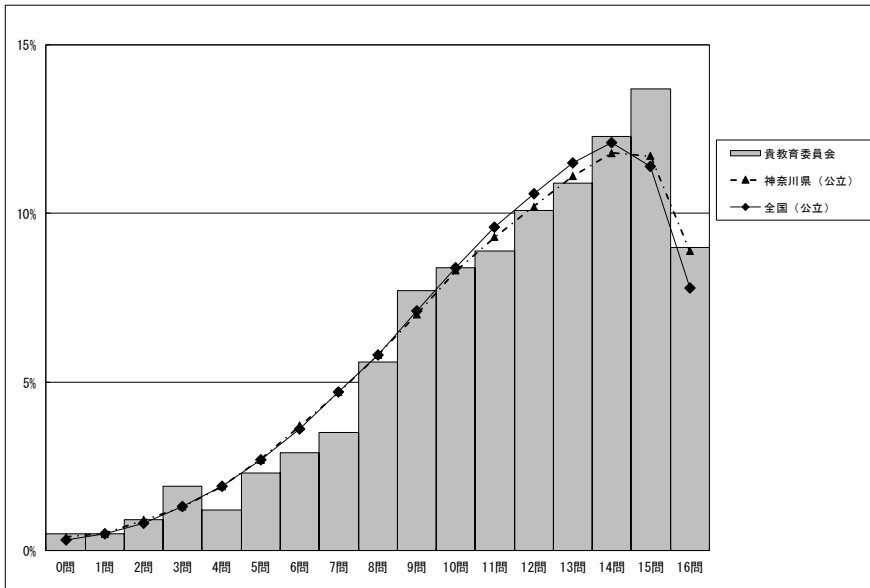
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [算数]
鎌倉市教育委員会—児童

小学校調査

以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	1,279	11.5 / 16	72	12.0	3.5
神奈川県（公立）	70,594	11.3 / 16	70	12.0	3.6
全国（公立）	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



正答数	正答数集計値			
	児童数 貴教育 委員会	貴教育 委員会	割合 (%) 神奈川県 (公立)	全国 (公立)
16問	115	9.0	8.9	7.8
15問	175	13.7	11.7	11.4
14問	157	12.3	11.8	12.1
13問	140	10.9	11.1	11.5
12問	129	10.1	10.2	10.6
11問	114	8.9	9.3	9.6
10問	107	8.4	8.3	8.4
9問	98	7.7	7.0	7.1
8問	71	5.6	5.8	5.8
7問	45	3.5	4.7	4.7
6問	37	2.9	3.7	3.6
5問	29	2.3	2.7	2.7
4問	15	1.2	1.9	1.9
3問	24	1.9	1.3	1.3
2問	11	0.9	0.9	0.8
1問	6	0.5	0.5	0.5
0問	6	0.5	0.4	0.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育 委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	14.0問	14.0問	14.0問
◇ 第2四分位	12.0問	12.0問	12.0問
▽ 第1四分位	9.0問	9.0問	9.0問

【資料2】令和3年度全国学力・学習状況調査概要

(中学校 国語・数学)

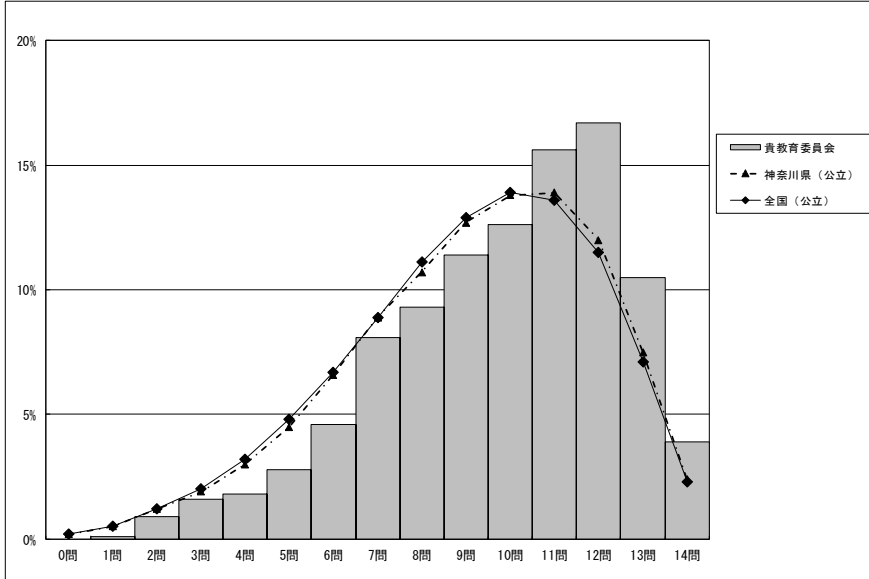
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [国語]
鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	891	9.8 / 14	70	10.0	2.7
神奈川県 (公立)	58,956	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国 (公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数 貴教育委員会	割合 (%) 貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
14問	35	3.9	2.4	2.3
13問	94	10.5	7.5	7.1
12問	149	16.7	12.0	11.5
11問	139	15.6	13.9	13.6
10問	112	12.6	13.8	13.9
9問	102	11.4	12.7	12.9
8問	83	9.3	10.7	11.1
7問	72	8.1	8.9	8.9
6問	41	4.6	6.6	6.7
5問	25	2.8	4.5	4.8
4問	16	1.8	3.0	3.2
3問	14	1.6	1.9	2.0
2問	8	0.9	1.2	1.2
1問	1	0.1	0.5	0.5
0問	0	0.0	0.2	0.2

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	12.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	10.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	7.0問

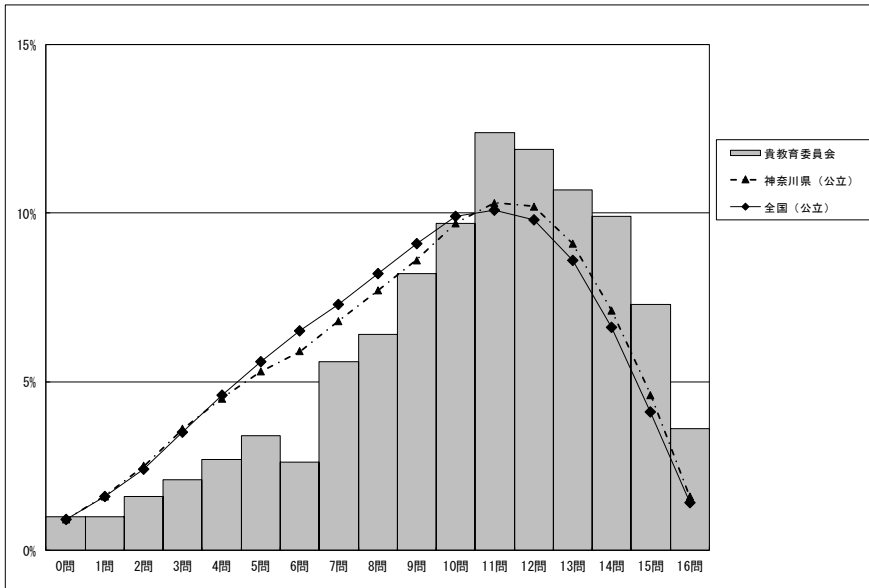
令和3年度全国学力・学習状況調査
調査結果概況 [数学]
鎌倉市教育委員会－生徒

中学校調査

・以下の集計値／グラフは、5月27日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
鎌倉市教育委員会	890	10.4 / 16	65	11.0	3.6
神奈川県 (公立)	58,985	9.3 / 16	58	10.0	3.8
全国 (公立)	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7

正答数分布グラフ (横軸：正答数、縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	生徒数 貴教育委員会	割合 (%) 貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
16問	32	3.6	1.6	1.4
15問	65	7.3	4.6	4.1
14問	88	9.9	7.1	6.6
13問	95	10.7	9.1	8.6
12問	106	11.9	10.2	9.8
11問	110	12.4	10.3	10.1
10問	86	9.7	9.7	9.9
9問	73	8.2	8.6	9.1
8問	57	6.4	7.7	8.2
7問	50	5.6	6.8	7.3
6問	23	2.6	5.9	6.5
5問	30	3.4	5.3	5.6
4問	24	2.7	4.5	4.6
3問	19	2.1	3.6	3.5
2問	14	1.6	2.5	2.4
1問	9	1.0	1.6	1.6
0問	9	1.0	0.9	0.9

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴教育委員会	神奈川県 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	13.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	11.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問	6.0問